

沖縄県外来種対策行動計画に基づく
セアカゴケグモ 早期発見・防除計画

令和2年3月

沖 縄 県

1 背景と目的

セアカゴケグモは、オーストラリア原産のヒメグモ科のクモ類で、1995年に大阪府で発見されて以降、国内で広く生息が確認されています。沖縄県では、1996年に米軍施設内でオーストラリアから輸入されたコンテナ内から雌1個体が採集されたことがあるものの、定着は確認されていません。

沖縄県では、県内には未定着であるものの、侵入した際の生態系等への影響が大きい外来種を「重点予防種」として指定しています。セアカゴケグモは咬傷により、人の生命又は身体に関わる被害が生じることなどから、重点予防種に指定されています。本早期発見・防除計画は、セアカゴケグモによる生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものです。

2 概要

(1) 和名等

クモ目ヒメグモ科

セアカゴケグモ (学名 *Latrodectus hasseltii*)

(2) 分布

原産地：オーストラリア

県内の確認状況：未定着。1996年に米軍施設内のコンテナ内で確認されたことがあるものの、野外での定着は確認されていません。

(3) 形態・生態

成熟した雌の体長は、約0.7～1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条があります。雄の体長は約4～5mmで、腹部背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並びます。卵嚢は直径約1～1.5cmで乳白色です。

海岸から市街地の人工的な環境に生息します。日当たりが良く、地面のある広い場所であれば、コンクリート建造物や器物のあらゆる窪みや穴、裏側、隙間、管渠、アングル部分に営巣が可能です。昆虫等を食べます。産卵期は5～10月で、雌は網の中に2～6個の卵嚢をつけます。1卵嚢中の卵数は20～300個です。

雌は小さいながら毒牙を有しますが、雄は無毒です。



赤色の縦条が特徴

背面



腹面

(若い個体であり、成熟すると白い斑紋は消える)

※写真は環境省ホームページ「外来種写真集」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>

(4) 想定される侵入経路

沖縄県内には定着していませんが、既に国内に広く生息していることから、コンテナ、パレット、建築資材、長期間駐車していた車両や自転車などに営巣したのが人為的に運ばれて侵入し、側溝、コンクリート建造物や器物などの窪みや穴、隙間等に定着する可能性があります。

3 指定の状況

特定外来生物	○
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	緊急対策外来種
日本の侵略的外来種ワースト 100	○
世界の侵略的外来種ワースト 100	—

4 生態系等への影響

咬傷により、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫張します。通常は、数時間から数日で症状は軽減しますが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、

不眠などの全身症状が数週間継続することがあります。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じることがあります。

5 目標

◎ セアカゴケグモの侵入防止

セアカゴケグモは既に国内に広く生息しており、コンテナや建築資材等の物資の移動に伴って、沖縄県内に侵入することが懸念されます。侵入リスクの高い港湾地区などで調査を実施し、また県民等から情報を収集することでセアカゴケグモの侵入を監視します。セアカゴケグモの侵入が確認された場合、関係機関と連携して速やかに対応します。

6 対策の方針

◎ セアカゴケグモの侵入監視

港湾地域などセアカゴケグモの侵入リスクの高い場所において、定期的な目視調査等を実施し、セアカゴケグモの侵入を監視します。また、広く県民からセアカゴケグモの情報を集めます。

◎ セアカゴケグモが発見された地域からの排除

セアカゴケグモが確認された場合、速やかに殺虫剤等により駆除を実施するとともに、目視調査により周辺地域での生息状況を確認します。また、可能な限り侵入経路を特定し、関係機関と連携して対策を検討します。

◎ 普及啓発

ホームページ、イベント、チラシ配布等を通して早期発見等の目的等を県民へ周知するとともに、発見情報の収集や監視・調査に向けた協力などが得られるよう取り組みます。

目標：セアカゴケグモの侵入防止

対策の方針		実施項目	期間及び実施内容	
早期発見	セアカゴケグモの侵入監視	侵入状況の調査	短期～ 長期	侵入リスクの高い場所（移入貨物量が多い港や港周辺など）で調査（目視観察）を実施し、侵入を監視する。
		県民や事業者からの情報収集	短期～ 長期	関係事業者を中心にその生態等を周知し、幅広く情報収集を行う。
初期防除	セアカゴケグモが発見された地域からの排除	侵入したセアカゴケグモの排除	短期～ 長期	発見した個体を駆除するとともに、周辺地域での生息状況を確認する。
		再侵入の防止		侵入経路を可能な限り特定し、その対策を実施する。
普及啓発		県民等への普及啓発	短期～ 長期	ホームページ、イベント、チラシの配布等を通して、早期発見の目的等を県民へ周知し、協力が得られるよう取り組む。

短期は概ね3年目までの期間、長期は概ね4年目以降の期間

7 実施体制

効果的かつ効率的な対策のため、以下のような体制を目指し、関係機関と連携します。

- 港湾地域や空港等での監視：沖縄県環境部、(環境省、施設管理者)
- 発見後の初期対応、周辺調査：沖縄県環境部、(環境省、施設管理者)
- 学校、公園、住宅地等での駆除：(施設管理者、市町村)

8 早期発見の方法

(1) 行政による監視

過去の調査や文献等を参考に、以下のとおり監視します。

○ 目視調査

側溝、下水管の蓋の裏側、ブロックの隙間などセアカゴケグモの生息に適した環境で、セアカゴケグモを判別可能な調査員によって目視調査を行います。

(2) 県民や事業者による監視

セアカゴケグモは、人工物の窪みや隙間等に営巣することから、港湾地域等の水際での監視をすり抜けた場合、民間敷地や事業者敷地に定着する可能性があります。

県民や事業者に監視の目が広がるよう、周知を図り、情報共有体制の構築に努めます。

9 初期防除の方法

○ 殺虫剤等による防除

厚手の手袋を着用し、市販の家庭用殺虫剤(ピレスロイド系殺虫剤)を噴霧して駆除します。卵のう(卵が入っている袋)は外皮に覆われているため、殺虫剤が効きにくいことから、ビニール袋に入れて踏みつぶします。

万が一、咬まれた場合は速やかに医療機関に相談する必要があります。

10 対応事例(マニュアル等)の紹介

(1) セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモにご注意ください！(環境省)

セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモの特徴や被害、分布(2017年2月14日現在)、生息する場所、発見した場合や拡散防止のための注意事項がまとめられています。

https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_gokegumo.pdf

(2) どうしたらいいの？セアカゴケグモの駆除方法(福岡市)

セアカゴケグモがよく発見される場所や駆除方法等についてまとめられた資料です。平成 27 年 4 月発行。

11 早期発見・防除計画の見直し

当該早期発見・防除計画は 3 年目に中間評価を行い、5 年目に見直しを行います。なお、対策上必要があると認められる場合は、随時見直しを行うものとします。